

ブラジルの医療と文化

1 医療事情の違い

ブラジルと聞くと日本の方々には医療も遅れているように感じる人が多いかと思いますが、都市部でのブラジルの医療程度はかなり高く、最先端を行っている診療科も多いです。歯科治療などは、日本の一部の進んだ歯科医を除けば、全般的に向こうの方が技術は高いのではと思わされます。

基本的に医療費は、公立病院へ行けば無料です。公立病院の質は決して低くはありませんが、見てもらうためには、朝早くから列に並んでということになりますし、緊急と認められない手術の場合は順番待ちが長く、その間に死んでしまう人もあるということです。しかし、救急部門では、緊急手術にも対応し、入院もすぐできるようです。

また、大きな病院への集中化を避けるため、地域の保健所が無料クリニックのような役目を果たしているようです。HIV の患者さんなどには、近くの保健所に行くように指導されます。また、公立のがんセンターもかなり質が高く、他の病院からの紹介ですぐにかかれるということもあるようですが、ブラジルの特徴として、どうしても人脈というのもきちんと医療を受けられるかどうかに関わってくる面があります。

医療保険については、民間会社が出している保険があり、その保険内容については、年何回まで MRI が撮れるかなど事細かに決めてあるプランがいくつかあり、プランによって月々の保険料は違ってきますが、提携病院にかかれば、基本的にプランの中にあるものは全て無料ですので、病院で支払うお金と言うのではないという感覚です。

また、出産に関しては、公立の大きな産院もありますし、医療保険も出産にかかる出費は全部保険から出ますので、病院への出費というのではないようです。

医療保険を持っていない人も、もちろん私立の病院やクリニックにかかることはできますが、医療費はかなり高く、入院するときも保証金を先に入れないと入院できません。

公立以外の病院はきちんと予約を取っていきます。特に小さなクリニックなどは、防犯対策がしっかりしていて、予約時間 10 分くらい前に行って、チャイムをおして鍵を開けてもらって入り、少し待って時間通りに診察と言うことが多いです。

ブラジルの人たちは、“朝晩シャワーを浴びないと” という人達なので、入院した際も自由にシャワーを浴びられるところが多いと聞いています。また、ベッドのシーツも公立病院の場合は自分で持って行かなければならないところもあるようですが、私立病院の場合は、まず、毎日シーツ交換をしてくれるようです。

田舎の方へ行くと俄然医療事情も変わってくるかと思いますが、都市部ではこのような感じですよ。

2 食文化の違い

非常に地域差があるので、なかなか一言では語れないのですが、共通している特徴は、夕飯の時間帯かだと思います。レストランも 7時から 8時から開くというところが多いよ

うに、全般的に遅いです。早くて、8時くらいから、一般的には9時くらいなのではないかと思います。

料理の特徴ですが、日本人の感覚からするとかなり一食の量が多く、こってりしたものがそろっています。私は、かなり大食いの方ですが、ブラジルでは、そうしたことから、どの食事でも好きだったものの、すぐ満腹になってしまうような感じでした。

海に面したところでは、市場に新鮮な魚介類がいっぱい出ていますので、リオでは、結構食事に取り入れている人も多かったのですが、どうも日本で内陸の方から来た人の話を聞くと、一切魚介類は食べないという人が結構いるようです。

私がリオで付き合っていたブラジル人の家庭では、食事の時には必ず、野菜サラダ(トマト、にんじん、赤かぶをゆでたもの、レタス、タマネギ、やしのめ等)やポテトサラダがつけ合わせに出てきましたが、日本で会うブラジル人に話を聞くと、どうもフェジヨン(豆のシチューのようなもの)、ごはん(炊く前にみじん切りのニンニクと油でいため塩で味付けした物)、牛肉の焼いた物というのが一般的な食事のようです。水曜と土曜はフェジヨンの代わりにフェジョアード(これはフェジヨンに肉、ホルモン、ソーセージなどが入った物)です。このときは、みじん切りのニンニクと炒めたケールの千切りと、マンジョーカ(タロイモ)の粉を炒った物を付け合わせます。

地域差があるかと思いますが、あとは、鶏肉一羽分に下味を付けてオーブンで焼いたり、鶏肉とオクラを煮たり、ホルモンと白いインゲン豆を煮込んだり、サーモンを焼いたり、干しだらをもどしたものを焼いたり、エビをゆでたり、魚介類をたっぷり入れた鍋などもあるのです。ただ、日本に在住するブラジル人に話を聞いていると、どうも肉食に偏っている人が多いようです。

そして、男性も女性もしっかりデザートを食べます。ブラジルのケーキは、日本の物に比べると砂糖の量が半端ではなく、かなり甘いです。お昼ご飯から夕食までの時間が長いので、ちょこっと、サンドイッチや日本でも最近あるボン・デ・ケージョなどをカフェで買ってつまんだりします。

また、ブラジルは果物が豊富ですから、いつもたくさんの果物を食べ、ジュースも実際の果物をジューサーで作ります。そして、このジュースに砂糖を入れちゃいます。朝食はこのフレッシュジュース、パン、チーズ、ハムに果物というのが一般的でしょうか。それで、常に食事の後はカフェです。コーヒーもこれでもかと砂糖を入れて飲む人が多いです。

また、食べ物を食べる時、完食せず、ちょっと残すのが礼儀だそうです。完食するのは量が足りなかったという意思表示なのだそうです。

3 出産文化の違い

よほど、田舎に住んでいない限りは病院での出産となります。自然分娩、帝王切開のどちらもありますが、自然分娩の場合も無痛分娩を望む人が多いようです。また、普通

は、陣痛が始まるか、子宮口が3 cm 以上開いているとき、破水があったときに出産のための入院をするということです。ただ、治安の問題（夜、産気づいたときに病院まで行く）や医師の不在の時に陣痛が起こってしまい、医療事故につながるということが懸念されるため、計画的に帝王切開を望む妊婦さんが多いということです。また、日本では体重管理が厳しいですが、むこうはかなり緩やかなようです。“太っている”“痩せている”という感覚も、少し日本人が思うのとは違うようです。

自然分娩の場合は出産後、その日にシャワーを浴び、次の日には家に帰るのが一般的といえます。帝王切開でも、出産の翌日、傷口を押さえながらシャワーを浴び、何もなければ、3日くらいで家に帰るようです。帝王切開の時の傷口は、テープで押さえることが多く、傷が癒えた後は、ほとんど傷跡が残りません。日本では、ホッチキスのような物で止めることが多いようで、帝王切開を受けたブラジル人の方で傷跡が段ボールのホッチキスを外した後のようだと言っている方がいました。

ブラジルでも最近、子どもはたくさんはいらぬという人が出てきていますが、基本的にクリスチャンが多いこともあって、子どもはたくさん欲しいという人が日本に比べれば多いのではないかと思います。

4 考え方の違い

日系ブラジル人の方々の中には、日本人より、日本人らしい考え方をされる方もいます。ブラジルにいる頃、日系人の方達のコロニアに寄せていただきましたが、みなさん、しっかりした日本語を話され、食事も、習慣も全く日本人というご家族をいくつか拝見しました。朝食なども、私などパン食ですが、ちゃんとおみそ汁とご飯、お正月には、おせち料理を作って、大家族で住む。こういった環境で育ってこられた方達は、今の若い日本人に比べれば、ずっと日本人らしい考え方をなさる方達だと思います。

ただ、ブラジルという国を考えたとき、いろいろな国から移民達が集まって来た国であり、かなり、日本との違いというのは顕著であると思います。

まず、移民が多いということを前提に考えているので、ポルトガル語がうまく話せなくても、なんとかかわかろうとしてくれる、何とか自分の考えを相手に伝えようとするという姿勢がほとんどの人にあります。

人種差別の一番少ない国と言われますが、確かに差別というのは、ブラジルにもしっかりあります。しかし、どの人も親切でありたいという気持ちがあるようです。嫌な言い方をすると、悪い人と思われたくないということです。それで、例えば、道を聞いたりとすると、例えそれが自分の知らないところでも教えてくれます。結果的にうそになってしまうわけですが、親切に教えてあげたいという気持ちなのです。ブラジルにいる頃、よく道を聞かれました。どうして、私に聞くのだらうと思って尋ねると“日本人は知っていれば教えてくれるし、知らない場合は知らないというから”だそうです。日本では知らない人に挨拶をするというのは、昨今難しいですが、ブラジルではエレベーターに

乗り合わせたりすると挨拶をします。また、ブラジル行きの飛行機で隣にブラジル人が座ったら、ブラジルに着くまでにその人の人生を全て知ることができると言われるほど、ひとなつこく話し好きの人が多いです。

ストレスの解消の仕方も随分違ってきます。朝早く起きて、仕事をし続けて、その後、夜中の12時くらいから朝まで飲めや踊れや……。 「疲れるんじゃないか」と聞くと、「毎日は無理だけど、時々、こうやってストレスを発散するんだ」ということでした。若くないとできないことですが、ブラジルの人はタフだなあと思わせられることが何度もありました。

ちょっとびっくりさせられるのは、ホームパーティーなどがあると、友達の友達の友達くらいまで来る人が広がってしまいます。パーティーの時は、そんなに食べ物はなくてよいらしく、飲み物を飲みながらおしゃべり、楽器演奏、ダンスで時間がすぐに5時間6時間たってしまいます。

また、家族の誕生日をすごく大切にします。

あと、すごく日本人と違うなあとと思われるところは、家に泊めてくれると言うときです。たいてい、日本人だと、しっかりスペースがないと泊めるとは言わないですが、どんなに家が狭くても床にごろ寝になっても泊めてくれますし、泊まりにおいでと言います。

「ブラジルの医療と文化」

発行年月 2008年10月

著者 岩本弥生

(MIC かながわ 医療通訳スタッフ、コーディネーター)

編集・問い合わせ 西村明夫 (u-akiojan@coffee.ocn.ne.jp)
